

NPO 法人 Matsudo 子どもの未来へ with us

第 5 期 事業報告書

2023 年 7 月 1 日から 2024 年 6 月 30 日まで

コロナ禍が 5 類に移行し一定の落ち着きを見せるなか、未曾有の物価高と経済の低迷は私たち市民の生活に大きな影響を与えている。

特にひとり親世帯や生活困窮世帯にとってこのような社会状況は食費や教育費を削るなど、日々の生活や子どもの将来に影響を与える事態となっている。

私たち with us は設立以来「地域から取りこぼされる子どもをひとりでも多く減らしていく」ことをミッションに子ども食堂などの居場所作りとその継続支援を行ってきたが、これに加えてどのような環境にいる子どもたちであろうとすべての子どもたちが本来持っている「こどもの権利」を護り、すべての子どもたちが自分らしく生きていける松戸市を作っていくことをあらためてビジョンに掲げ活動して来た。

第 5 期を総括するにあたり with us はこのビジョンの実現に向けて子どもの権利を護り、子どもが参画できる「こどもにやさしいまち、まつど」づくりをさらに推進していくことをあらためて確認したい。

【非営利活動に係る事業】

1. 子どもの居場所の立ち上げ及び居場所運営者に対する運営基盤強化支援事業

①with us 独自の「子ども食堂スタートアッププログラム」による立上げ支援

4 件となった。

食堂えびす（六実）、
装爽ネットワーク（新松戸）、
河原塚みなみ子ども食堂（河原塚）、
八ヶ崎子ども食堂（八ヶ崎）

当法人がその設立の契機となった「松戸市子どもの未来応援基金」を原資とする「子ども食堂新規開設・運営補助金」の活用により、2024 年 6 月現在 46 食堂（松戸市 HP による）となり「小学校区にひとつ以上の子どもの食堂」という当初の目的は数値的には達成したことになった。

しかし量的拡大の意味は評価しつつも中には開催が不定期だったり、弁当の配布のみという私たちが目指す「居場所」とは異なる趣旨の活動団体もあり、数値目標の達成から質的向上を目指す時期に来ていると考える。

②子どもの体験の格差解消に向けた子ども食堂支援事業

子ども食堂などの活動の中で、自然体験や文化的体験など年齢に応じた経験の機会が

少ない子どもたちと私たちは出会ってきた。

この事業は子ども食堂単体では難しいが with us が子ども食堂を支援することを通じて、そのような子どもたちに体験の機会を提供することを目的としている。

今年度はサマーキャンプとスノーキャンプ計2回を実施した。前年度と比べて参加者数、参加子ども食堂数ともに増加し、このプログラムの目的の理解が浸透したことを実感している。

特に今年度は「自然体験を通して子どもの主体的な参加」を促し子ども中心のキャンプ作りに挑戦した。利用施設や日程、予算などの外的制約もありつつ、管理的プログラムをできるだけ排除し子どもたちが考え行動できる取り組みは徐々にではあるが進化してきていると思う。

この取り組みは私たちが目指す「こどもまんなか」社会の実践につながるものであり、実践することによって私たちにとっても学び多い機会となっている。

また特筆すべきは子ども食堂や学習支援やキャンプの卒業生たちがユースリーダーとして参加してくれるようになったことである。

彼らは大人と子どもを繋ぎ、若者の意見を反映させていくうえでとても重要な役割を果たしてくれている。このような「循環」は私たちが目指していることであり引き続き若者たちの参加を促していきたい

なお、いずれも NPO 法人千葉自然学校の協力を得ている。

《サマーキャンプ》

2023年8月9日、10日に1泊2日、大房岬自然の家において実施。

市内6か所の子ども食堂から24名参加（前年度：4食堂 25名）

台風の影響で「海岸アドベンチャー」はできなかったが、高波の中での波乗り体験など専門家のサポートなしにはできない体験ができた。

また、「体験の格差」をテーマにテレビ局2社（BS TBS チバテレビ）の取材が入った。

《スノーキャンプ》

2024年1月9日～11日に2泊3日、国立磐梯青年交流の家にて雪遊び等の体験を実施した。市内8か所の子ども食堂から32名参加（前年度：3食堂 26名）

雪不足が心配されたが、そり遊びやスノートレッキングで非日常的な雪体験を提供した。

2. 子どもの居場所ネットワーク構築事業

特筆すべき活動は行わなかった

3. 子どもの居場所運営者に対する人材研修事業

① 「安心・安全な子どもの居場所づくり」をテーマに勉強会を開催した。

子ども食堂などが必ずしも子どもにとって安心安全な居場所になっていない現実を踏まえて、子どもの人権や子どものセーフガーディングについてお互いに学び合う機会となった。

日時：2023 年 11 月 29 日（水）13:30～16:30

場所：まつど市民活動サポートセンター

主催：NPO 法人まつど子どもの未来へ with us

後援：松戸市、まつどNPO協議会、「こどもにやさしいまち、まつどキャンペーン（CFC まつど）」実行委員会

参加者数：44 名（子ども食堂や子どもの居場所運営者、他市を含む市会議員等）

協力：認定 NPO 法人 ACE、全国こども食堂支援センターむすびえ

《企画について》>

- 代表が委員となっている「こどもまんなかを考える実践者の会（事務局：むすびえ）」の活動の一環に位置づけられている。
- 団体が実行委員をつとめる「こどもにやさしいまち、まつどキャンペーン（CFC まつど）」の賛同イベントとして開催できた。
- この勉強会を契機に 2024 年 6 月船橋市で開催され、同年 10 月柏市で同様の勉強会が開催予定となり、県内の子ども食堂に子どもの権利についての関心を高めるきっかけとなった。

4. 子どもの居場所に関する普及啓発事業

① 10 代の居場所モデル事業「with us 北松戸」

前年度と引き続き週 4 日で開催。新規利用者より常連の利用者がリピートで来るようになり、彼らにとって居心地のよい場所になっていると思われる。

年間延利用者：315 名

また、来場者に家庭に問題を抱えていて児童相談所の案件となっている児童がいるが、児相や松戸市子ども家庭センターが当該児童との面談場所として「with us 北松戸」を依頼してくるなど、行政機関からも当事業の意義が認知されている。

② 代表理事による講演活動

2023 年

7 月 和洋女子大

8 月 ちばの会シンポジウム「食でつながる居場所作り」コーディネーター

9 月 狭山市社協市民講座（オンライン）、松戸市民生委員児童委員協議会

10 月 市民活動よろず相談（まつど市民活動サポートセンター）

市原市社会福祉協議会

11 月 千葉経済短大（コープみらい寄付講座）

2024 年

1 月 子どもの権利シンポジウム（柏市）

2 月 八街市協働のまちづくりシンポジウム

6 月 株式会社 & A 全国大会での寄付金授与式出席（神戸）

5. 子どもの居場所に関する調査・研究・提言事業

① 子ども若者自立支援モデル事業

昨期から採択されたパルシステム「伴走付給付型奨学金」で今期は外語大生 1 名の伴走をしている。

② 「子どもの権利条例」制定に向けた活動

2023 年 10 月 9 日松戸市市民劇場にて当団体も実行委員として参加している「こどもにやさしいまち、まつどキャンペーン（C F C まつど）」のスタートアップイベントとして「夢見る小学校」「ゆめパのじかん」の上映会と「ゆめパのじかん」の重江監督の講演、監督を交えてパネルディスカッションを開催。市内外から 200 名を超える皆さんが参加し、「こどもまんなか社会」への関心の高さが感じられた。

6. その他

① 松戸市子どもの自立支援事業「子どもスマイルプログラム（所管課：子ども部こども家庭センター）」を 2023 年 4 月に継続受託することになった。センターから提示された虐待懸念の 5 つのケースを担当し継続中である。

② 法人の信頼性や経済的基盤を強化するため、2024 年 2 月認定 NPO 法人格を取得。

7. 最後に

第 5 期を終えて当法人の活動も当初の居場所作りの中間支援団体の役割から、子どもの権利擁護や体験格差の解消に向けた取り組み、親の支援を得られない若者の自立支援、虐待防止、安全安心な居場所作りなどその幅を広げて来た。

しかし如何に活動の幅が広がり多様化しようとも、私たちの目指す社会は孤立を無くし子どもも大人も誰もが自分らしく生きられる社会である。

私たちは現場での実践を通してこの目標に取り組み、学び、それをまた現場に返すという循環を繰り返し成長する組織を目指していく。

その有効な方法の一つとしての子ども食堂や居場所作りである、いう原点を忘れずに今後の活動を推進していきたい